

デジタル時代のコンテンツ戦略タスクフォース ヒアリング

クリエイター経済圏 およびAI活用について

クリプトン・フューチャー・メディア株式会社
代表取締役 伊藤 博之

2022年2月25日

音楽制作のDX

- 音楽制作に必要な設備
 - 昔：ハードウェア(スタジオ機材・楽器)と専門家
 - 今：全てソフトウェア化
- コロナ禍でバンド活動足踏み→DTMユーザー増加
- SONICWIREの売上はコロナ前比で倍増
- 一般消費者が自力で原盤制作までできる、原盤自己管理
- UGCクリエイター増加、音楽原盤増加
 - ✓ 世界第3位の音楽市場イギリスでは、1984年の1年間に発売されたアルバム数が6,000枚であったのに対して、今日では毎日55,000曲もの新たな楽曲がDSPに追加

音楽制作のDX

スタジオ機材のソフトウェア化



EMIが初めて制作した
ソリッドステートコンソール
TG12345をモデリング



Abbey Road Studiosの
協力によって誕生した
テープサチュレーション



IRをリアルタイムに
適用するコンボリューション・リバーブ

音楽制作のDX

楽器のソフトウェア化



アピーロードスタジオで
精細に収録！リッチな
音色のピアノ音源！



簡単操作で高品位な歌声が
実現可能！新技術による
次世代の初音ミク



二十絃箏が本来持っている
美しい音色と表現力を追求

音楽制作のDX

制作スキルのソフトウェア化



プロの音楽プロデューサーが
手掛けた「サンプルパック」が
1万5千タイトル以上！



AI分析によって、
自動で適切な
リバースを適用



帯域ごとの
ダイナミクスを
スマートに処理

音楽流通のDX

- フィジカル→デジタル
- ストリーミング・サービス
 - Video Streaming (YouTube, ニコ動, Twitchなど)
 - Audio Streaming (Spotify, Apple Musicなど)
- ダウンロード・サービス
 - BandCamp, gumroad, BOOTHなど

音楽宣伝のDX

- クリエイター個人のメディア化
 - クリエイターとファンはSNSでつながり直接PR
 - クリエイター同士のコラボで話題づくり、Power of Pull
- PRツールの出現
 - Chartmetric(音楽ストリーミングのデータ分析サービス)
 - Soundcharts (DSPログ、各種チャート、プレイリスト、ラジオ局、SNS等幅広いデータソースを用いて分析)
 - ToneDen (Facebook広告のテンプレ&効果測定ツール)
 - など

クリエイター経済圏

音楽制作
音楽流通
音楽宣伝

いままではレコード会社が担っていた役割が
→個人でも担えるようになってきた



- 自分でやってみるDIYの風潮
- 自ら起業するクリエイターも
- 伝統的な音楽産業界との齟齬も

音楽産業界

- UGCはノンメンバー？
 - UGCが増えている
 - UGCクリエイターや作品の正確な把握は困難
 - UGC作品の売上は音楽産業界の統計データに入らない
 - UGCクリエイターを「ノンメンバー」として区別
 - UGCの地位向上にIMCJやJNCAが取り組む必要あり

音楽産業界

- ISRCの整備
 - 原盤の「主キー」は何??
 - 配信限定楽曲は放送しても報告できない
 - ISRC：レコードの識別に利用される国際標準コード
 - ISRCのマスターデータベースが不在
 - ISRCの整備が音楽産業界のDXの基本の基本

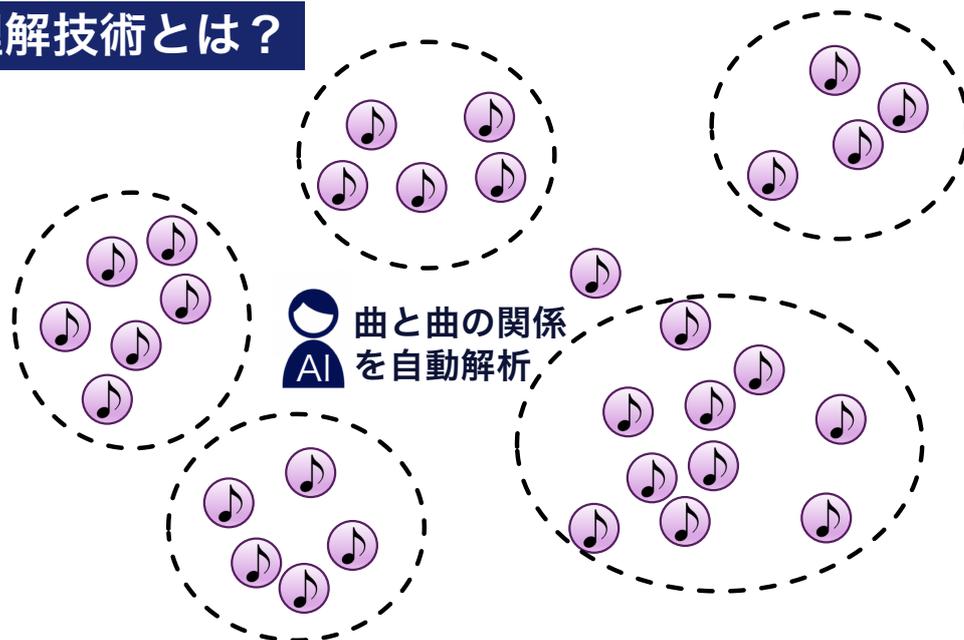
音楽産業界

- The rich get richer, the poor get poorer.
 - デジタル化によりプラットフォーム依存が強固に
 - 「富める者はより富む」傾向がフィジカル時代より強い
 - クリエイターが最低賃金と同じだけ稼ぐには400万再生/年必要
 - 人気のアーティストほど繰り返しオススメされるアルゴリズムに課題、プラットフォーム依存から脱却
 - 音楽の原盤や歌詞の中身を解析する「音楽理解技術」とそれに基づく「音楽の類似度」の新たなアルゴリズム

音楽理解技術とは？



音楽理解技術とは？



解析データによるクラスタリングで曲と曲の類似度を測るAIエンジン

まとめ

デジタル時代のコンテンツ戦略はどうあるべきか？

- UGCクリエイターと作品の把握(メンバー化の取り組み)
- UGCクリエイターが取りっぱぐれないために配信限定楽曲も放送二次使用料分配の対象にすべき、そのためにはISRCマスタDBの構築が必要
 - ※原盤とISRCのバリデーションにも音楽理解技術が活用できる
- UGC作品のグローバルプロモーションのために、音楽理解技術(音楽AI技術)の活用を推進する

以上となります。

itoh@crypton.co.jp